

1

音楽家ヘンデルの医療福祉支援活動

柳澤 波香

津田塾大学

バロック音楽の巨匠として名高いヘンデル (George Frederic Handel, 1685年-1759年) は、ドイツのハレに、ザクセン選帝侯の侍医を務める床屋外科医を父として出生したが、生涯の大半をロンドンで過ごし、同時代のロンドンおよびアイルランドに設立された篤志病院や孤児院の創設と発展に惜しまない援助を与え、多大な貢献をなした。また、社会保障が存在しなかった時代に、音楽家の寡婦や遺児の支援、困窮音楽家の救済を目的として設立された音楽家協会の発展にも尽力した。

ヘンデルが英国貴族の招きを受けてロンドンに来たのは1710年であった。イタリアで音楽修業を積んだヘンデルは、音楽の停滞期にあった当時の英国に新風を吹き込み、オペラ『リナルド』を作曲、上演し、大喝采を浴びた。外国人が王室の公式作曲家になることは通常は認められていなかったが、王室の寵を受け、その地位を得たヘンデルは、ロンドンで作曲活動を継続し、オペラ、オラトリオ、カンタータを次々に発表した。1726年、ヘンデルは英国に帰化した。「外国人」であるがゆえに、敵意を持たれることも多く、1730年代頃からは困窮を極め、歌劇は失敗続きとなり、破産状態に陥り、さらには健康を崩した。失意のヘンデルに手をさしのべたのはアイルランド総督で、その招きを受けて、1741年にダブリンへ赴いた。ダブリンでは彼の楽曲は既によく知られており、大歓待を受けた。ヘンデルは、設立まもないヴォランタリホスピタルであったマーサー病院、慈善診療所、負債囚支援のための慈善演奏会開催に同意し、オラトリオ『メサイア』を短期間で完成させ、大成功をおさめた。

ロンドンに戻ったヘンデルは、1740年代の半ば過ぎ以降、次第にロンドンの社会に受容されはじめ、同時代のロンドンに相次いで設立されたヴォランタリホスピタルの支援に積極的に関わるようになった。1747年、ヘンデルは皇太子妃の侍医を務める外科医ウィリアム・ブromフィールドが設立したLock Hospital (梅毒、淋病専門病院) 支援のために慈善演奏会を開催した。また、疾病貧民を治療・収容したミドルセクス病院 (1745年創立) が新病院の建築を計画した際も、快く慈善演奏会を開催し、多額の寄付を行った。

社会的弱者の救済、慈善活動に熱心であったヘンデルが殊に心を寄せたのは、貧困による児の遺棄、婚外子の増加を憂慮した慈善家トマス・コーラムが設立したブルームズベリの捨子養育院 (Foundling Hospital, 1741年創設) であった。1749年、ヘンデルは捨子養育院のためのアンセムを捧げた。この養育院の支援には、画家の Hogans 文化人のほか、内科医・博物学者スローン、内科医ミードらも関わり、外科医チェゼルデンは病児の治療を行った。ヘンデルは1750年、養育院の理事となり、オルガンを寄進し、孤児の歌唱指導を熱心に行った。彼は毎年、養育院で慈善演奏会を開催したが、その演奏会は常に人気があり、大変混雑したため、演奏会用のチラシには、「男性は(礼装用の)サーベル、女性はフープ(スカート用の張骨)の着用をご遠慮下さい」という、観客の服装に関する注意事項が記載されていた、と伝えられている。

1751年頃よりヘンデルの視力は低下した。外科医S.シャープ、引き続いてブromフィールドによる白内障手術を受けたが、殆ど視力を失い、公開演奏会を断念せざるを得なくなった。1758年、ヘンデルはジョン・テイラーによる白内障手術を更に受けたが、失敗し、1759年4月、聖金曜日の翌日にロンドンの自宅で歿した。ヘンデルは亡くなる数年前より遺言を記し、捨子養育院、篤志病院、音楽家協会に多額の遺贈を行った。